

日本頭頸部外科学会 会員の皆様へ

「がん治療の真髄は、頭頸部にあり。

——共に日本のがん診療を牽引しましょう」



日本癌治療学会（JSCO）理事長の吉野孝之です。

現在、がん診療は、ゲノム医療の進展や免疫療法の台頭により、かつてない変革の時を迎えています。その中で、解剖学的複雑さと機能温存という至上命題を併せ持つ「頭頸部がん」の領域は、まさに集学的治療の最前線であり、我々が最も注視すべき分野の一つです。

しかしながら、本学会における耳鼻咽喉科・頭頸部外科の会員数は、現状、他科に比して十分とは言えず、皆様のような卓越した外科的視点を持つ先生方の知見が、学会全体に波及しきれていないことを危惧しております。

この度、日本頭頸部外科学会理事長・朝蔭孝宏先生より、若手医師の育成と本学会への参画を促すため、「新規入会者の初年度会費を貴学会が支援する」という、極めて異例かつ力強いご提案をいただきました。この画期的な試みに、私は深い感銘を受けるとともに、両学会の連携をより強固にする絶好の機会であると確信しております。

なぜ、今「日本癌治療学会」なのか

1. 「がん治療の共通言語」を習得する

JSCO は臓器別ではなく、横断的に「がん」を捉える学会です。腫瘍内科、放射線科、歯科、緩和ケアなど多職種が集う場での議論は、頭頸部外科医としての専門性を相対化し、より高い次元での意思決定能力（Decision Making）を養います。

2. 臨床研究・ガイドライン策定への主体的な関与

日本最大級のがん専門家集団である本学会において、頭頸部領域のプレゼンスを高めることは、診療ガイドラインの策定や国家的ながん対策への提言において、皆様の専門領域の声を反映させることに直結します。

3. 次世代を担う専門医の育成

若手医師にとって、JSCO での活動は必須のキャリアパスです。今回の会費支援制度を活用し、経済的負担を軽減しながら、早期に研鑽を積むことを強く推奨いたします。

頭頸部外科医は、手術という最強の武器を持ちつつ、薬物療法や放射線療法をコーディネートする「がん診療の司令塔」です。皆様の参加なくして、日本のがん治療の未来は語れません。

この支援制度を機に、一人でも多くの志ある先生方が JSCO の門を叩き、共にがん克服への道を歩めることを切に願っております。

一般社団法人 日本癌治療学会

理事長 吉野 孝之